

# 朝葉末の

(第三期卒業生贈桜星云歌)

加藤義夫君 作歌  
角倉邦彦君 作曲

## 一

朝葉末の露を受け  
夕歸鳥の影宿し  
曙句ふ石狩に  
玉の泉と湧きしより  
思へば茲に三歳の  
過ぎにし水路を偲ぶ哉

## 二

大気は凍り雪もやの  
荒れし廣野の面をこむ  
時しも高く天界に  
光芒強き北極星  
いさごと光る星くづは  
我をばめぐり走るなり

## 三

かつらの若芽色も濃く  
森に生氣の溢る時  
奇しき天地の靈受けて  
大和心と咲き出でし  
蝦夷の深山の山櫻  
我等が理想此處にあり

## 四

雲漠々に水ゆるぎ  
大野の心我にあり  
眞理求めて息まざる  
久遠の望我にあり  
衆愚の聲にまどはざる  
我に男の子の覺悟あり

## 五

消ゆる榮華を夢に見て  
虚しき名をば人よ追へ  
北の荒野に三百の  
健兒浮雲を嘲りつ  
永遠に變らぬ美土に  
注ぎし汗の寶を求む

## 六

黄花的牧に新緑の  
森に鍛へよ鐵の腕  
紅葉彩どる野に山に  
吹雪の里に思想鍊れ  
勉めよ奮へ我友よ  
やがてぞ起たん時は來ん